

地域包括ケアネットワーク No.98

新見医師会における認知症の取り組みについて

新見医師会理事 迫田 秀治

我が国では、人口減少が顕著になり、異次元の少子化対策が模索されていますが、私の活動拠点の新見地域は、長年人口の減少と高齢化に向き合ってきました。

地域の皆さんは、日ごとに進行していく高齢化の中で、様々な問題を抱えつつも自分らしく暮らしておられますが、健康については、ご自身はもとより、ご家族にとっても重要な要素となっています。

高齢者にとって、健康問題の一つに「認知症」がありますが、初期段階から症状の変化に伴って、ご自身やその家族が抱える悩みは大変多岐にわたります。

地域の高齢者及び認知症の人が住み慣れた地域で自分らしい生活が続けられるように、行政や地域社会で様々な取り組みがあります。新見医師会会員も医師として認知症についての専門知識や技術を活用した情報提供や啓発活動、地域住民の認知症対策等に関わってまいりましたが、新見医師会としましては、新見市からの委託事業として医療と介護の連携強化のため、医師、コメディカルや介護従事者の連携・調整を行う「新見市在宅医療・介護連携支援センターまんさく（以下「まんさく」）を設置し、事業を実施しています。

まんさくでは、スムーズな連携の元となる情報共有支援のため「新見版認知症情報共有書」の作成や、認知症への理解の促進と認知症の人、ご家族への支援の実現を目指し、「認知症リーフレット」を作成し、運用しています。

このリーフレットでは、認知症の症状の変化と対応のポイントや、認知症の人の家族への支援体制を盛り込んでいて、予防においては、認知症サポーター養成講座の開催と啓発を。介護においては、介護サービスと活用の促進を。医療においては、かかりつけ医、認知症初期集中支援チーム、認知症疾患医療センターの紹介を。相談においては、新見市地域包括支援センター、まんさく、さきがけホスピタル認知症疾患医療センターの紹介を。生活支援においては、給食サービス、移送サービス、成年後見制度などの紹介を。社会活動においては、認知症カフェの定期開催の紹介を掲載するなど啓発を推進しています。

また、新見市内のコメディカルや介護従事者、社会福祉協議会、保健所、消防署、まんさく、市役所職員等の現場での支援に関わる地域内組織の新見地域医療ネットワークなどとの連携・情報共有にも努めています。

また、新見地域を越えて高梁市地域の連携も積極的に図っています。

平成元年5月1日、さきがけホスピタル認知症疾患医療センターに事務局を置いた、医療・介護関係機関の連携、かかりつけ医等の研修会開催、専門医の連携体制の充実を図る、認知症疾患に関する情報の収集と発信等を目指した「高梁・新見地域認知症疾患医療連携協議会」が設置されました。

令和4年度の取り組みとしては、4月と翌年2月の2回の認知症研修会を連携して開催しました。特に2回目の研修会では高齢者、認知症における運転免許についての研修会を行いました。

これら、認知症に関わる医師、医療従事者、そして様々な専門職や介護・福祉施設、そして行政が有機的に力を合わせ、社会生活や家庭生活等幅広い情報共有や研修などにより、一層連携を深め充実した支援が実現できるものと考えています。

今後も認知症になっても安心して暮らせるまち「にいみ」を実現の一助となるべく、取り組みを続けて参りたいと考えています。